

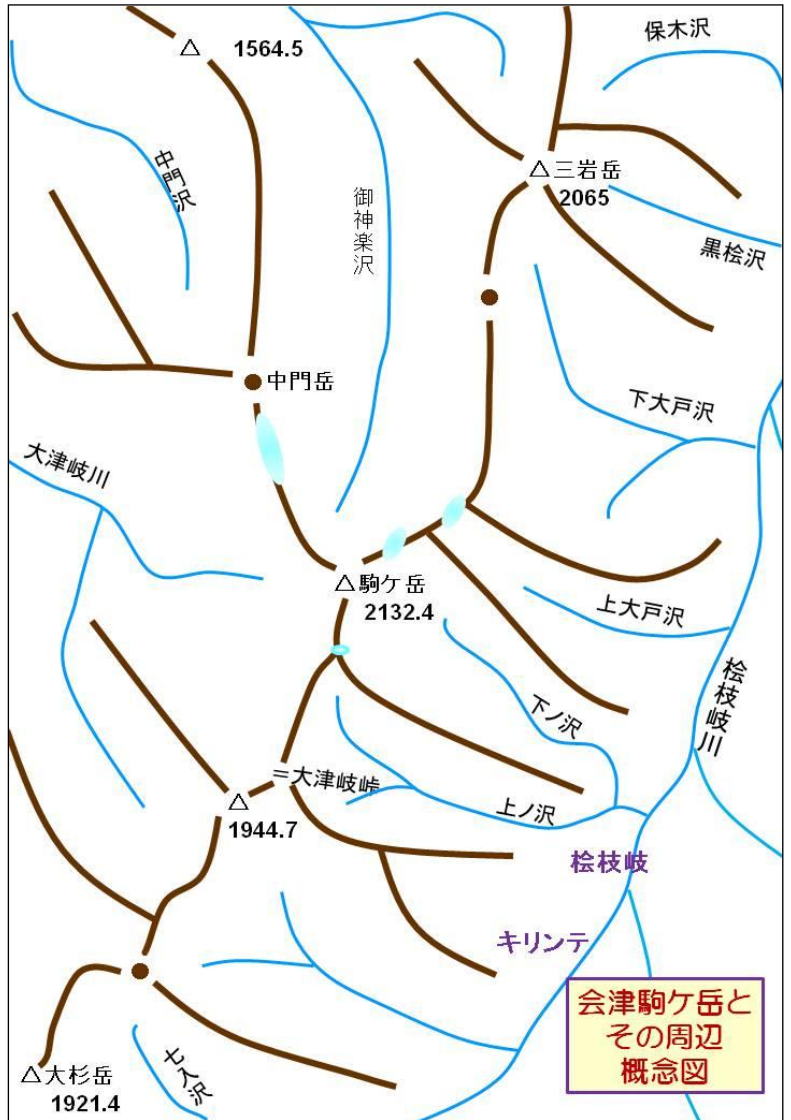
# 踏み跡 <My Mountains>

5月に大久保君との初めての山歩きとして蓼科山登山を計画したが、雨のため流れてしまった。リターンマッチを計画することになり行き先は会津駒と決まった。この山も山ほどある積年の懸案事項の一つである。

昭和60年7月20日  
 天気は晴れ、大久保車（スカ G）に同乗して15時30分に自宅を出発。  
 東北自動車道に入って快調に走っていたら、黒雲に覆われた世界に突入。稲妻と前方が見えないぐらいの強烈な土砂降り。今市、鬼怒川と抜けても雨は一向に止まず。鬼怒川温泉で食堂に入り夕食（カツ丼）。  
 間欠的な雷雨の中を山王峠越えし、桧枝岐の滝沢橋に21時25分に到着。  
 林道の終点まで進み、計画通りツエルトを設営しようと思ったら再び雷雨の残りが襲来し車から出ることでもできず。止むを得ず車中泊に変更。  
 夜中に車が何台も到着し、その都度灯りで目が覚めてしまい熟睡には程遠かった。

昭和60年7月21日  
 4時15分起床、天気は晴れ。昨日の雷雨のことを思えば天国のような空模様。  
 朝食はインスタントラーメン。そそくさと済ませて5時半に出発。いきなり急登が始まりびっくり。

水場への分岐点7時30分、岩清水と名付けられたその名の通り岩場から流れ出る冷水で喉を潤してこれからの400mの高度差に立ち向かう馬力を付ける。  
 飲んだ分がまた汗になって噴き出してくるが、清水の勢いを借りて森林限界を抜け出すと馬の背のような柔らかな曲線の稜線と陽光に光る池塘が視界に入ってきて疲れが取れる。  
 駒の小屋前9時。焼失したという駒の小屋の跡は何とも無残、（下左写真：駒ヶ岳頂上から見下ろす）目の前の駒大池だけが残されて悲しい光景である。



燧は遠望（左下写真）、平ヶ岳は雪が少々、越後駒も……。素晴らしい景色をおかずに昼食のメニューは、パン・牛肉缶詰・紅茶・ハチミツレモン・オレンジ・などなど。

## 踏み跡 <My Mountains>

昼食後中門岳と駒ヶ岳へ。駒ヶ岳の頂上は海拔 2132m、何の変哲もない「ただの頂上」だが、風もなく眺めは良く気持ちが良い。

中門岳と中門岳に向かう稜線は「花の豊富な湿原」という表現がぴったり。ハクサンコザクラ、ワタスゲ、イワカガミ、コバイケイソウ、チングルマ、ゴゼンタチバナ、モウセンゴケなど知っている高山植物が目立ちうれしくなってくる。若干黒雲がちの空になってきたので、軽食をとって 13 時 30 分に下山開始。

途中岩清水で土産用に美味しい水をポリタンに満タン。

登山口に 15 時 30 分に到着。素晴らしい山を振り返りながら洗顔と着替えをしていたら雷雨が襲来してきた。

大急ぎで車に逃げ込んだが、粒のような雨になりやがて丸い大きな弾丸のような雨になってきた。まさしく瞬間の豪雨のような状況で、車の中で残りの着替えをして出発。

帰路は雷雲とともに移動という感じで、東北自動車道を走る頃にも頭上は黒雲と土砂降り。

行きも帰りも土砂降りという面白い(?) 筋書きになったが、長年の夢「会津駒と中門岳」を果たすことができ充分すぎるぐらい満足な旅だった。



以上

